

髻（一段目）と螺髪（二段目）で表す像とし、時に、阿弥陀さんになり、時には、釈迦如来になる共有的な創作の如来像とした。

像容は、両足をそろえて椅子に腰掛けた姿の倚像で、中国や西域では見られる像だが日本ではめずらしいので倚像を使い、子供の像とより親近感を持たせる形とした。

なお如来の倚像で有名な東京都・深大寺の釈迦如来倚像は細身だったが、私のは、愛らしく、ふっくらとした慈愛の如来をイメージして作っていく。

主尊の如来右側に①微笑んだ男の子を彫り出し、左側に②両手で仏の教えを伝える梵籙（宝経）を持つ子を出す。

全体の背面に舟の形をした光背を作り、裏の上に③右に両手で珠を持った中腰姿の子を出し、両手で白珠を持った姿を彫る。

最後に全体を支え乗せるための薄い白雲に乗った上蓮華を作り、平成二十六年十月一日に完成する。如来が、今日の家族や人間社会の希薄を体感し、ニュースで親が子を、子が親を殺す事件を見た

時、家族愛や人間愛、動植物愛や自然愛が、この地球で育っていないことに愕然とするかもしれない。老若男女に姿・形を通して知ってもらいたい。そのため、白の大理石の中からお迎えした。今回、仏教史の中で初めて同像が創作され、謹彫を終えた。

合掌

■ 尊像を謹製

日本の伝統芸術の粹を伝える長岡兄弟

我が国の石、日本人の心技

一刻礼拝の念を以って

大慈大悲の尊像を謹製

《不二石仏開眼》

■ 師が仏

お釈迦さまが説いた仏国土を石に託したい。

仏身即我身。我身即仏身。反復心を以って廣大無辺の仏様迎える我身。

仏師こと師が仏です。

職人と芸術家の違い

職人は自分の手と体を使いながら技を磨き経験を積んで製品を作る。



創作・仏手とハタ持ち地藏菩薩倚像
三ヶ根観音太山寺本堂前に建立（愛知県の
霊峰三ヶ根山頂）（112.1×50×48.5cm）